

株式会社 アイデアル
代表取締役 **鈴木芳之氏**



それ以上に印象に残るのは、訓練の受講者が少ない若い世代との面談です。若い世代向けの求人は沢山出ていて、すぐ就職できますし、パソコンもある程度使えるので、職業訓練に通う若者は少ないわけですが、私自身、娘が就職活動をする年齢になったからということもあり、とても関心を持っています。まず感じるのは、みんな口をそろえたように「自分に合った仕事に就きたい」という言葉がよく出てきます。この言葉は10数年前にはあまり聞いたことがありませんでしたし、30代半ばより上の世代の求職者の方からは今でも出ません。本当にここ数年、20代の若者に多いのです。この言葉が、出てきたら私はきまって「自分に合った仕事とはどんな仕事だと考えていますか?」と問いかけますが、はっきり答えられる若者はほほほいません。そのたびに残念な気持ちになります。

「障がい者雇用と若者・高齢者のキャリア支援」

2. 自己紹介

昭和51年生まれの47歳で、川西町に生まれ、家族は農業を営む両親と妻と娘二人がおります。仕事は約22年前の25歳のころからハローワークや自治体が窓口になっている職業訓練に関わらせていただいております。パソコンや簿記の講師から始めましたが、現在は主に教室運営と、キャリアコンサルタントとして年間50名前後の求職者の方の相談業務を担当しています。昨年9月、南陽市に株式会社アイデアルを創業し、教育、文化、スポーツなど幅広い分野の事業に取り組みたいと考え、新たな事業活動に向けた準備を進めさせて頂いております。現在取り組ませていただいている事業は、大きく分けて2つで、キャリア支援事業とメディアカード事業です。本日は、これまで1,000人以上の求職者の方の就職支援を通して、感じている変化や印象などを中心に、お話しさせていただければと思っています。私なりの個人的な解釈も含まれてしまうかもしれませんがご容赦頂ければ幸いです。

3. 障がい者雇用について

今年の2月、障がい者向けの職業訓練パソコン講座を1か月間、南陽市で開催させて頂きました。職業訓練は実施場所に平日毎日通っていただき1日5～6時間程度、パソコンの基本操作から文書作成表計算、面接練習、職場実習などを行う内容で、就労を目指すための講座です。就労が可能で毎日通うことのできる障がい者の方は、人手不足の状況もあり、現状ほとんど仕事に就いているようでして、1度目の募集では応募者が集まらず残念ながら延期となりました。それでも2度目の募集ではハローワークさんや関係機関からお声がけをいただいたおかげさまで、定員の5名の受講者が集まり、開催する事が出来ました。その後の就職活動に関しても県やハローワーク、就労支援施設の担当者の方と協力し、就労につなげられるよう支援を行っています。

民間企業の障がい者法定雇用率は令和6年度から2.5%に上がり、従業員を40人以上雇用している事業主には、障害者を1人以上の雇用が義務付けとなり、令和8年度からは2.7%と段階的に引き上げられ、38人につき1人以上となります。先日ハローワークの担当者の方のお話を聞いたところ、紹介できる障がい者数が少なく、企業側に紹介したくてもできないのが現状のようです。今回のような訓練制度をきっかけに、パソコンの基本操作はもちろんですが、簡単なホームページ更新作業やSNSでの情報発信など、在宅ワークでも働けるITスキルを身に付けることで、就労に対して意欲的になれる障がい者の方が増えて、一般社員の方に交じって働くことに抵抗があっても、仮に在宅勤務での就労が可能な制度があれば、企業側としても障がい者雇用実績の幅が広がるのではないかと考えています。障がい者雇用は、就職して働こうと思える環境やきっかけを提供することに力を入れていくことが大切なのではないかと思っています。

4. 若者・高齢者のキャリア支援

職業訓練に関わってきた約20年の間に、19歳の若者から60歳を過ぎた高齢者まで、多くの方の就職支援を行ってきました。色々なお話を聞かせて頂きましたが、それを通して私なりに感じていることをお話しさせて頂きたいと思っております。

・高齢者の支援について

まず、職業訓練を受講する年齢層の変化についてです。20年ほど前は、20歳代から40歳代の求職者の方が大半で、50歳代の方が数名程度。60歳以上はゼロでした。ここ数年は5.60歳代の求職者の方が毎回半数以上を占め、20代30代が少しいという印象です。色々な要因があると思いますが、大きいのは年金受給年齢の引き上げと、若者不足が考えられます。最近多いのは、60歳定年を迎え、会社から再雇用の提案もあつたがいったん退職し、年金を受給できる年齢まで、短時間労働でよいので、他業種で働きたいという方。子供が手を離れて時間ができ、収入はそれほど多くなくても良いので、働くことで社会との関わりを持ちたいという50代の方。などが増えている印象です。この世代の方々は今現在の労働人口のボリュームゾーンですので多くなるのは自然なことなのですが、短時間労働を希望する高齢者は今後増えてきそうです。60歳を越えてからの再就職については、人手不足の状況ですから職種を選ばなければ働き先はそれなりにあるようですが、職種が限定的で、なかなか希望する求人がありません。職業訓練に通ってパソコンを覚えて職業選択の幅を広げたい方が多いようです。キャリアコンサルタントの役割として、働くかどうか迷っている方の後押しも重要な役割と認識していて、他の訓練施設の担当者の方との勉強会でも度々テーマに上がります。共通認識としては、誰かに後押しされて本人に働く意欲を持ってもらうことが一番のようです。それで我々のような役割のものが職業訓練の中に組み込まれています。高齢になればなるほど、自分の意志だけではなかなか求人に応募ができず、そのまま就職しないことも少なくありません。働きたいと希望している高齢者は沢山いる状況なので、社会人経験豊富な年齢の方が活躍できる仕事が増えればよいのですが、仕事内容が限られてしまうのが現実のようです。

・若者の支援について

以前も自分に合った仕事にと考える人もいたのですが、どちらかという大半は、やってみたい仕事、できそうな仕事、収入が高い仕事などと考えていたと思います。もちろん個人差はあると思いますので一概には言えませんが、正直そこまで考えて就職してなかった若者が多かったのではないかなと思っています。なんとなく知り合いがいるからとか、給料が高いからとか。そんな印象があります。現代の若者はスマートフォンの普及により、世の中の情報を簡単に知る事が出来ますから、旧世代の若者より色々なことを知っています。若者のキャリアコンサルティングを行う機会は年配の方に比べ極端に少ないので、一概には言えませんし、実際のところは教育現場や家庭環境など別の要因も考えられますが、「自分に合った仕事に就きたい」というのは色々なことを知っているからこそ出てくるようになった言葉なのではないかなと思っています。30代以上の方からはあまり出てこないのは、仕事というものを自分なりに理解するまでに、社会に出てから10年はかかるのだろうか私なりに解釈しています。今の小学生のなりた職業をよく聞くのはユーチューバーだそうです。昔は芸能人やプロスポーツ選手とかが多かったのですかね。なぜかと考えると、見る機会が多いからで、ただそれだけだと思います。小学生にとって、あの人のようになりたいと思うことは、大きな原動力になりますから。しかし、それもおそらくごく一部の積極的な子で、ほとんどの子は年齢を重ね高校生になるころには、SNSなどから色々な情報が入ってきて、働くことの大変さばかりが目についてしまい、無理して働きたくない気持ちになり、「自分に合った仕事」よりは「自分が生きていく中で、負担にならない仕事に就きたい」になってしまうのではないかなと思っています。そこで、現代の情報量に見合ったキャリア支援が、今の若者には必要なのではないかと考えています。私たちキャリアコンサルタントが行うことのできるキャリア支援は、何かを教えるものではありません。定期的な面談を通して、自分の考えや行動を言葉に発する機会を作ること、自ら考え、気づきを得ることが出来るように促すことです。この部分が私が事業として取り組ませていただきたい分野です。

5. まとめ

企業にとって、長く働いてくれる若い人材を新たに雇用することは、今の状況ではなかなか難しいでしょうし、今後はますます大変なことが予想されます。若者が情報に引っ張られて、条件が良くて業種や職種の選べる都市部に集中してしまうのは自然な流れでしょうが、結局、自分に合っているかどうかは分からないままでしょう。それでも、都市部で働いたのち、地元に戻ってきてくれたり、都市部に行かず、地元に残って仕事に就いてくれる若者が増えてくれたら、雇用したい地方の企業にとって、とてもうれしいことだと思います。そのためには社会に出る前の学生のころから、社会に出て働くとはどういうことかを考える機会を提供することが必要だと思っています。社会で働いてきた経験の豊富な社会人と、早い段階で直接的に接して話せる機会があって、その中で気づきがあれば、色々な分野で働く人に対して「尊敬・リスペクト」が生まれる可能性が沢山あると思っています。リスペクトがあれば、あの会社に入ってみたいなど考える原動力が生まれるかもしれません。逆にそれが無ければ、好きな娯楽のためにお金が必要だから、仕方がなく、やりたくもない仕事をするという若者が増えてしまう恐れがあり、そうなってしまえば当然やる気はありませんし、会社やそこで働く人たちへのリスペクトも生まれませんから、簡単に辞めます。現代の若者は賢いので、他にも仕事は沢山あって、自分たちに価値があることを知っていますから。せっかく仕事を覚えたのに退職されて、また新しい人を雇って仕事を覚えるまで指導して、この繰り返しでは指導する立場の人も疲弊してしまつて長持ちしません。私は今後取り組んでいくキャリア支援事業として、転職支援サービスや、企業で働く従業員の方や学生へのキャリアコンサルティング業務を通して、若者の早期離職の予防、担い手不足の解消など、生産性の高い職場環境づくりのお手伝いをさせて頂きたいと思っています。これには皆様のお力添えがなければ何もできません。どうかこの機会にご検討いただければ幸いです。

Rotary  Rotary International District 2800
2023～2024
TAKAHATA ROTARY CLUB

5月23日

WEEKLY REPORT 世界に希望を生み出そう

会長 鈴木 司郎 幹事 高橋 雅明 例会 毎週木曜 12:30～13:30 旅館 エビスヤ 事務局 山形県高島町高島 911-2-2F tel 0238-52-5440・fax 52-5444

本日の例会 [2693 th] 2024.5.23

米沢市高等技能専門学校

理事長・校長 **佐藤洋行氏**

前回の例会 [2692 th] 2024.5.16

株式会社 アイデアル

代表取締役 **鈴木芳之氏**

- ・点鐘12時30分 鈴木 司郎 会長
- ・ロータリーソング 四つのテスト
それこそロータリー
- ・ソングリーダー 木村 健彦 君
- ・S A A 木村 健彦 君

会長あいさつ

鈴木 司郎 会長

みなさんこんにちは。まず初めに本日のゲストスピーカーをご紹介します。

「株式会社アイデアル 代表取締役 鈴木芳之氏」です。後ほどご講話をいただきます。

さて 先週の例会での会員卓話のお話にありました五色温泉オートキャンプ場に、キャンプ愛好会10名でモニターキャンプを実施いたしました。当日は天気にも恵まれ穏やかで歴史ある五色温泉のお風呂、そして素晴らしい新緑の風景の中ロータリーを語り、ロータリーを十分に楽しんで参りました。西方君にはいろんな面でお世話になりました感謝申し上げます。是非皆さんもお出かけになってはいかがでしょうか。

私の年度の重点目標の一つでありました、入会5年未満と新会員向けのセミナーの実施を6月前半に、クラブ改革プロジェクトチームの小平委員長と講師の方とで調整をさせていただいております。少しでもロータリークラブの事を学び、又、例会への出席を促すことを目的としております。

該当する会員の方の、多くの参加をお願いいたします。又、次年度理事・役員・委員会も今週から開かれますが、金子会長年度の素晴らしいスタートダッシュがされますよう会員皆様のご協力をお願いします。

《委員会報告》

クラブ改革プロジェクトチーム
小平 和広 委員長

会員セミナーを開催

日時：6月3日(月) 18時 30分～
会場：エビスヤ
会費：5,000円
講師：天童東RC 赤塚弘実 君
講演テーマ：「ロータリーを語ろう」

スマイルBOX

- ・本日のご講演ありがとうございました。
丸山 俊秀 君
- ・昨日、弊店の店長が振り込め詐欺を防止し、南陽警察署より表彰を受けました。今年度で4回目です。
高橋 雅明 君
- ・20年ほどお預かりしていた昭和40年代製の車をご家族の方が引き取りに來られ、お礼の言葉をいただきました。
山村 義美 君

《出席報告》

会員数 47名 出席者数 20名 出席率 42.55 %
前回修正47名 出席者数 37名 出席率 78.72 %

《メーカーアップ》

平 清美 君・皆川賢治 君・大河原章 君・土屋 衛 君
鈴木司郎 君・若林智次 君・齋藤富義 君・後藤隆暢 君
相田日出夫 君・梅津陽一郎君

次回の例会 [2694 th] 2024.6.6

特別養護老人ホーム **はとみね荘**

施設長 **島崎慎一氏**

次々回の例会 [2695 th] 2024.6.13

クラブ協議会